

小川通無電柱化事業の完成に当たって



京都市長

門川 大作

「風景は心の鏡」(風景は、そこに住む人の心を映し出すもの)。

研ぎ澄まされた感性で、深い情感をたたえた風景画を数多く残した東山魁夷は、こんな言葉を残しています。

応仁の乱後、織物のまちとして復興した西陣。中でも小川通(油小路通)周辺では、織屋、商家、寺社や茶道家の門構えが連なり、この地域ならではの景観を創出してきました。500年以上にわたり脈々と受け継がれてきたこの趣のある佇まいは、歴史を大切に、まちを愛してこられた地域の皆様の高いお志を映し出すまさに「鏡」と言えるもの。かけがえのない町並みを守ってこられた皆様に、深く敬意を表します。

そんな小川通を、より美しい姿に生まれ変わらせようと平成24年度から取り組んできた無電柱化事業が、この度いよいよ完成します。幅員の狭いこの道路での工事は、沿道の皆様をはじめ多くの方々の御理解と御協力なしには成し得ぬものでした。お力添えを賜りました全ての皆様に、改めて心から御礼申し上げます。

今後、電線や電柱がなくなった空、環境にも配慮した石畳風の舗装が、町並みを一層引き立ててくれるものと確信しています。

昨年、長年の悲願であった文化庁の京都への全面的な移転が決定し、本年4月からは一部先行移転がスタートしました。本市といたしましては、茶道文化の中心とも言えるこの地から、京都が誇る文化を広く発信し、「世界の文化首都・京都」への飛躍を目指して全力を尽くしてまいります。引き続き、皆様の御理解と御協力をお願い申し上げます。

結びに、この素晴らしい景観が百年後、千年後の未来へと受け継がれていくこと、並びに小川通周辺地域のますますの発展をお祈りいたします。

位置図



京都市建設局道路建設部道路環境整備課

TEL:075-222-3570
FAX:075-213-0193
〒604-8571

京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地



<道路環境整備課・広報キャラクター>
～けんせつにゃんこ～

平成29年4月発行
京都市印刷物 第293020号

この印刷物が不要になれば「雑がみ」として古紙回収等へ!



平成29年春完成

小川通 無電柱化

石畳風保水性アスファルト舗装



小川通 無電柱化事業

小川通では、平成24年度から景観の保全と防災性の向上を目的に、通りから電柱を取り除く無電柱化事業に取り組んできました。電柱をなくす工事は、管路等を地中に埋め、その中に電線類を通した後、上空の電線類から地中の電線類に切替え、その後、電柱・電線類の撤去を行いました。

本事業箇所は道幅が狭く、最も狭い場所で3mしかございません。そのため、既に埋設されている水道やガス管の移設を行い、無電柱化のための管路を埋めるスペースを確保しました。工事には長い年月がかかりましたが、地元の方の御理解・御協力のもと、この度完成することができました。



管路を埋設する工事の様子



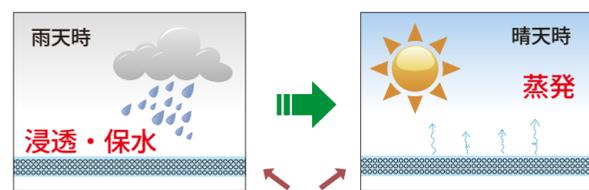
狭い空間での工事の様子



電柱を抜く工事の様子

石畳風保水性アスファルト舗装

石畳風アスファルト舗装とは、空隙の多いアスファルト舗装にさらさらとした液状のセメント(セメントミルク)を流し込み、その表面を少し削ったうえで、カッターで石畳風に仕上げる舗装です。通常の石畳舗装に比べて、凹凸が少なく、快適に歩くことのできる舗装です。今回は、更に石畳風アスファルト舗装の舗装材料に水を含みやすく蒸発しやすい鉱物質系材料を加え、保水性を持たせることで、路面温度の上昇を抑制する効果をもたせました。人にも環境にもやさしい舗装です。



美しくなった道を涼しく歩けるなんて嬉しいな!

施工の流れ



アスファルト舗装 セメントミルク注入 ショットブラスト(表面研磨) カッター(目地入れ)

整備内容

路線名：一般市道油小路通(小川通)
事業区間：上京区禅昌院町～宝鏡院東町
道路延長：L=250m
事業年度：平成24年度～平成29年度4月
地上機器数：4基
撤去した電柱：11本
新設した照明灯：11基



本法寺 仁王門前



整備前

本阿弥光悦所縁の庭園がある本法寺。仁王門前の敷地に地上機器*を設置させていただきました。

*電気を安全に供給するための設備のこと。

景観照明灯 (LED)



整備後

無電柱化に伴い、電柱に添架していた照明灯に代わり、照明柱を新たに設置する必要があります。幅員が狭いところでは、沿道の方に御協力いただき、民地内に建てさせていただきました。

ちびっこ広場整備



整備前

整備後

応仁・文明の乱の主戦場となった「百々橋」の礎石があるちびっこ広場。西側には孝明天皇遺愛の人形をはじめ、多くの人形を所蔵する「人形の寺」として有名な宝鏡寺があります。擬石のベンチと遊歩道を設置し、地域の憩いの場として活用できる広場としました。



裏千家今日庵前



整備前

茶道家の風情を感じる今日庵の兜門前です。門の内側には、国の名勝となっている庭園があります。今日庵前の道路を横断する電線類がなくなり、景観に配慮した舗装となったことで、より趣のある町並みとなりました。



整備後

表千家不審菴前

不審菴は千利休が管んだ茶室の名前で、歴代の御家元によって継承されてきました。不審菴前にあった電柱と電線類がなくなったことで、すっきりとした風景に生まれ変わりました。



整備前



整備後



整備前



整備後